FAGiANO
Okayama

The 10th
Anniversary

2006→2016

ファジアーノ岡山スポーツクラブ 10年の軌跡

感謝と共に～株式会社設立10周年記念誌

The 10th Anniversary

ファジアーノ岡山スポーツクラブ 10年の軌跡

感謝と共に～株式会社設立10周年記念誌

Contents

代表あいさつ　「皆さまと共につくるファジアーノのこれからの10年」
木村 正明 ―― 2

History　ファジアーノ岡山 10 年のあゆみ ―― 3

Interview　ファジアーノ岡山 これからの 10 年へ向けて ―― 15
岡﨑　彬 ／ 髙谷 茂男 ―― 16
岡田 拓士 ／ 尾﨑　茂 ―― 17
尾崎 健治 ／ 守井 秀龍 ―― 18
山下 立次 ／ 飯田 陽久 ―― 19
丹下 和則 ／ 坂上 大祐 ・ 田邊 直幸 ・ 木山 るり子 ―― 20
岡本　透 ―― 21
森　健太郎 ／ 明石 卓巳 ―― 22

Directory　ファジアーノ岡山　歴代スタッフ ・ 在籍選手名鑑 ―― 23

History

ファジアーノ岡山10年のあゆみ

皆さまと共につくるファジアーノのこれからの10年

株式会社ファジアーノ岡山は、このたび10周年を迎えることができました。この10年は、まさに激動の10年でした。先が見えず不安いっぱいだった黎明期から現在に至るまで、私たちを黙して支えてくださった皆さまへの御礼と、当時の声を残しておきたく、本周年誌を刊行いたしました。

２００６年の代表就任後、役員５人で合宿し目標を立てました。３年でＪリーグ入り、７年で練習拠点、10年で観客１万人、15年でサッカースタジアム、30年でスクール無料化……。かなり高いハードルにもかかわらず、道を切り開いてこられたことに心から感謝しています。

この10年、私たちは「ともに」を強く意識して活動してきました。選手と共に、地域の皆さまと共に、岡山も倉敷も共に、地域の誇りと共に……。クラブとは、私たちと共にある皆さまこそが主役との思いからです。

この記念誌は、10年後の未来へ向けたメッセージでもあります。ぜひこれからも私たちを叱咤激励し、クラブと共に歴史をつくっていただければ幸いです。

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ
代表取締役　木村 正明

pre-history

3月　11日。ファジアーノ岡山（岡山サッカーリーグ県1部）の運営主体・岡山ヒューマンスポーツクラブが県からNPO法人認証書を交付され、クラブの母体組織となる。初代監督に山下立次就任（03年から継承）

11月　21日。岡山サッカーリーグ県1部において11戦全勝で優勝確定

22日。中国地域県リーグ決勝大会にて準優勝、中国リーグ昇格を懸けた入れ替え戦への出場権を獲得

12月　19日。中国リーグ入れ替え戦で鳥取KFCに勝利し、同リーグに昇格

2004
（平成16年）

2月　倉敷市出身の在日朝鮮人4世元Jリーガーで、元北朝鮮代表・梁圭史が現役復帰して加入

9月　10日。2005晴れの国おかやま国体夏季大会で、三菱自動車水島FCとファジアーノ岡山を中心とした成年男子が初戦敗退

10月　23日。中国リーグを2位で終了。JFL昇格を懸け、全国地域リーグ決勝大会1次ラウンドへ

11月　20日。チーム名「ファジアーノ」（イタリア語でキジ）をモチーフにしたマスコットキャラクターが、応募総数117点の中から赤木一行さん（倉敷市）の作品に決定

26日。JFL昇格を懸けた全国地域リーグ決勝大会に初出場するも1次ラウンド敗退

2005
（平成17年）

history

2月　9日。マスコットキャラクターの愛称が「ファジ丸」に決定

7月　13日。「株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ」創立。代表取締役に木村正明が就任

9月　24日。中国リーグ初のナイトゲーム。リーグ史上最多の6831人が来場。このゲームで中国リーグ2位以内を確定させる

10月　29日。中国リーグで初優勝し、全国地域リーグ決勝大会へ

12月　3日。全国地域リーグ決勝大会決勝ラウンドに進むが3位で終わる。JFLへの昇格ならず

2006
（平成18年）

1月　13日。「ファジアーノ・フットサルパーク」がJR岡山駅前にオープン。翌月にはスクールも開講

2月　1日。手塚聡新監督が就任。シーズン前に19人が退団

臼井仁志（現U・12監督）ら15人が新加入

7月　8日。開幕13連勝で全国地域リーグ決勝大会出場へ。中国リーグ史上最多の9252人が来場

8月　21日。Jリーグから地域リーグ所属チームとして全国初となる準加盟申請を承認される

10月　29日。中国リーグ、全勝にて連覇。JFL昇格を懸け、全国地域リーグ決勝大会1次ラウンドへ

12月　2日。全国地域リーグ決勝大会決勝ラウンドを制し、JFLへの昇格を果たす

2007
（平成19年）

JFL昇格を決め、石井岡山県知事を表敬訪問したファジアーノ岡山イレブンら（2007年12月5日）

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ設立記者会見で抱負を語る木村正明代表（右）と山下立次監督（2006年7月26日）

JFL昇格を決め、歓喜に沸くファジアーノ岡山イレブン（2007年12月2日）

ファジアーノ・フットサルパークでプレーを楽しむ愛好者（2007年1月13日）

中国リーグ初優勝を決め、喜びを爆発させるファジアーノ岡山イレブン（2006年10月29日）

黄色のユニフォームの少年と手をつないだ選手が、今は現クラブの運営担当者に（2005年6月26日）

2005年当時の応援風景。この年、最高観客数はホーム初戦の450人（2005年6月19日）

岡山県からNPO法人認証書を交付される岡山ヒューマンスポーツクラブ（2004年3月11日）

全国から多数寄せられたマスコットのデザイン。ファジアーノ岡山への関心の高さを物語る

中国リーグ昇格を決め、両腕を突き上げて喜ぶファジアーノ岡山の選手たち（2004年12月19日）

2008
（平成20年）

チームスローガン「FROM OKAYAMA TO J LEAGUE」

1月　妹尾隆佑（現U-12コーチ）が加入
26日。「JFL昇格を祝う会」開催。県内の経済団体や行政の代表、サポーターら約350人が一堂に会し、夢のJリーグ・ディビジョン2（J2）昇格へエールを送る
3月　3日。JFL初参戦に向けた新ユニフォームをお披露目
16日。JFL初参戦。初戦でホンダFCを破り、以後開幕6連勝を飾る
4月　1日。育成組織となるジュニアユース（中学年代）チームが発足し、JリーグU-13に加入
サポーターやチームを応援する学生サークル「ファジピスタ」が活動開始
7月　6日。木村正明代表が青年版国民栄誉賞と銘打った「人間力大賞」（日本青年会議所など主催）を受賞
8月　31日。第88回天皇杯全日本選手権大会岡山県代表決定戦でライバル三菱自動車水島FCを下し、初優勝
9月　13日。第88回天皇杯本大会に初出場。翌月12日、3回戦で、J2のヴァンフォーレ甲府に惜敗
22日。JFL創立10周年行事で伊藤琢矢選手が選抜チームのメンバーに選ばれ、バンコクへ海外遠征
11月　30日。JFL最終戦で引き分けるも、5位のチームが敗れたため、J2入り昇格条件である4位確定
12月　1日。Jリーグの臨時理事会で、J2昇格が決まる。岡山に待望のJリーグチームが誕生

J2昇格条件の4位が確定し、喜びいっぱいのファジアーノ岡山イレブン（11月30日）

JFL初参戦に向けて新調したファジアーノのユニフォーム（3月3日）

約350人が出席して行われたファジアーノ岡山のJFL昇格を祝う会（1月26日）

J2昇格が決まり、ポーズを決めるファジアーノ岡山の木村正明代表（右から3人目）と手塚聡監督（同2人目）ら（12月1日）

トップ、ジュニア選手らを総動員して「うらじゃおどり」に初参加。先頭は木村代表と手塚監督の2トップ（8月1日）

2009
（平成21年）

チームスローガン「夢から、日常へ。IT STARTS HERE」

1月　真子秀徳（現U-18GKコーチ）、西原誉志（現強化部強化担当）が加入
17日。県サッカー協会主催で「J2昇格祝賀会」開催
28日。第67回山陽新聞体育賞特別賞を受賞（贈呈式は31日）
2月　22日。岡山社会人サッカー連盟の2008年度総会で、「ファジアーノ岡山ネクスト」（ネクスト）の岡山県リーグ1部参加が認められる
3月　J2最多の44人の選手登録となる
8日。Jリーグ元年となる開幕戦でヴァンフォーレ甲府と引き分ける。1万525人の観客動員を記録
21日。第3節ベルマーレ湘南戦で関口圭亮選手がチームのJ初ゴールを決める
4月　12日。この年のホーム最多入場者数1万3228人（横浜FC戦）を記録
29日。第11節アビスパ福岡戦でJ2昇格後、初勝利
6月　7日。ファジ丸がアビスパ福岡戦でデビュー
10月　25日。岡山サッカーリーグ県1部を制した「ネクスト」が、岡山サッカーリーグ王座戦も制し県ナンバーワンに輝く
12月　5日。全51試合を戦い、18チーム中最下位に終わる
シーズン終了後、3年間指揮を執った手塚聡監督は退任し、影山雅永ヘッドコーチが新監督に就任

マスコットキャラクター「ファジ丸」がデビュー（6月7日）

J2初勝利を待ちわびるサポーターらの前で、先制点を挙げ喜ぶファジアーノ岡山イレブン（4月29日）

J2昇格後初のホームゲームとなる開幕戦（対ヴァンフォーレ甲府）に1万人超の長蛇の列（3月8日）

J2昇格後、県北初の公式戦開催、3348人の観客が訪れた。試合前のサインボール投げ入れで盛り上がるスタンド（5月31日）

「J2昇格祝賀会」（岡山県サッカー協会主催）が開かれ、岡山県内の政財界関係者、サポーターら約350人が祝福（1月17日）

2010
（平成22年）

チームスローガン「Driving evolution for the next 100years
～100年続くクラブのDNAのために～」

1月
21日。岡山市が支援策として進めていた灘崎町総合公園多目的広場サッカー場の使用開始

5月
7日。幼児、小学生向けのサッカースクールを岡山市内に開校。県内3校目で、元選手ら専属コーチが指導
16日。J2昇格から、ホームゲーム通算入場者数が20万人を突破する

7月
18日。ファジアーノ岡山のグッズなどを販売する「ファジスクエア@ファジロード店」が岡山市北区清心町にプレオープン。正式開店は30日
30日。「平日ナイト1万人チャレンジデー」となるコンサドーレ札幌戦で、田所諒選手がJリーグ通算50ゴール目を決める。今季最多の1万1290人の観客
30日。練習環境向上を求める署名活動が始まる。県サッカー協会、サポーター有志などでつくる「ファジアーノ岡山の専用練習場整備を推進する会」（代表・千葉喬三岡山大学学長）が実施。10月末までに10万人を目標

10月
2日。ファジアーノ岡山ネクストが中国リーグ4位で終了

11月
25日。専用練習場設置を求める要望書と28万4673人分の署名を髙谷茂男岡山市長に提出

12月
4日。19チーム中17位でシーズンを終了。「ファジアーノ岡山募金推進委員会」（代表・越宗孝昌山陽新聞社社長）が505万6543円を贈る

「ファジスクエア@ファジロード店」が岡山駅とスタジアムの間にオープン（7月30日）

カンコースタジアム前広場で、練習場整備を求める署名に記入する市民ら（7月30日）

大分県九重町キャンプでの夜通しの山岳訓練（1月22日）

マスコミ5社で構成するファジアーノ岡山募金推進委員会が1年間の募金活動で集まった「505万6543円」をファジアーノ岡山に贈る（12月4日）

「ファジアーノ岡山の専用練習場整備を推進する会」の千葉代表（中央）が専用練習場整備を求める署名を髙谷岡山市長に提出する（11月25日）

2011
（平成23年）

チームスローガン「100DNA　100年続くクラブのDNAのために。2011」

3月
14日。東日本大震災の影響を考慮し、J1、J2の3月中の全公式戦の中止、延期が決定される
31日。この年発足したユース（高校生年代）チームが練習をスタート、トップチーム昇格を目指し本格始動

4月
2日。東日本大震災の被災者支援のため、中四国にあるJ2の4チームがチャリティーマッチを開催
23日。東日本大震災の影響で中断していたJリーグが約1カ月半ぶりに再開

5月
21日。横浜FC戦にて、J2昇格後ホームゲーム通算入場者数が30万人を突破する

6月
13日。髙谷茂男岡山市長が専用練習場を同市東区升田の岡東浄化センター内に整備することを正式に表明

9月
25日。ファジアーノ岡山のセカンドチーム「ネクスト」が、中国リーグを3位で終える

10月
19日。ガイナーレ鳥取戦で、DFストヤノフ選手がJ昇格後チーム100得点目となる先制PKを決める。同じく小林選手がホームゲーム通算50ゴール目をあげる

12月
3日。J2の4チームによる今季からスタートした中四国ダービー初代「PRIDE　OF　中四国」に輝く
3日。J2昇格3年目となる今シーズンを昨季より四つ順位を上げ、過去最高の20チーム中13位で終える

岡山市による専用練習場整備決定を受け、髙谷茂男市長に感謝を伝える木村正明代表ら（6月16日）

東日本大震災の被災地支援のためJR岡山駅で街頭募金（3月16日）

沖縄キャンプ初日、砂浜を走り込むファジアーノ岡山イレブン（1月24日）

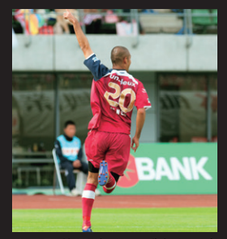
ストヤノフ選手がJ昇格後チーム100得点目となる先制PKを決める（10月19日）

震災後、初のホームゲーム。試合前に県内合唱団など約700人が東北へ勇気の歌声を届けようと「上を向いて歩こう」を合唱（4月30日）

2012
（平成24年）

チームスローガン「100DNA　100年続くクラブのDNAのために。2012」

1月　23日。岡山市が専用練習場の造成工事をスタート
4月　30日。Jリーグ昇格後初のホームゲーム4連勝を飾る
6月　2日。この日のホーム公式戦を「岡山市民デー」と銘打ち、会場で多彩なイベント開催
24日。リーグ戦全42試合のうち、この日のヴァンフォーレ甲府戦で前半戦を終え8位。昇格4年目で初の1桁ターン。また、J昇格後、ホームゲーム通算入場者数が50万人を突破
9月　17日。湘南ベルマーレ戦で、ファジアーノのユニホームを企画、製作する「ペナルティ」がサポーターへ贈呈した応援用ビッグユニフォームフラッグが初お披露目
23日。ファジアーノ岡山のセカンドチーム「ネクスト」が、中国リーグを2位で終える
10月　6日。津山市の津山陸上競技場でアビスパ福岡を破り、JFL時代を含め津山での初勝利をあげる
11月　11日。モンテディオ山形を破り、昇格4年目で初めて1桁の8位となる。このゲームで、川又堅碁選手がJ昇格後、クラブ最多得点となる18得点目をあげる
13日。ミャンマーへ初の海外遠征（～19日）。同国代表と招待試合
12月　「ネクスト」が発足4年目で全国地域リーグ決勝大会に初出場。4チーム中最下位


川又堅碁選手がクラブ史上最多得点記録を樹立（11月11日）

J2昇格後、津山での初勝利を飾ったファジアーノ岡山イレブンを応援するサポーター（10月6日）

ファジアーノのTシャツを着たJR岡山駅前の桃太郎像が市民の日をPR（6月1日）

初の海外遠征となったミャンマーで記念撮影するファジアーノ岡山の選手たち（12月13日）

湘南ベルマーレ戦で、応援用のビッグユニフォームフラッグ（縦15m、横17m）が初お披露目（9月17日）

2013
（平成25年）

チームスローガン「100年続くクラブのDNAのために。」

3月　27日。岡山市出身のタレント桃瀬美咲さんをチームの特命PR部女子マネジャーに任命
29日。天然芝2面、夜間照明がある人工芝1面とクラブハウスを備える「政田サッカー場」が完成。開場記念式典が開かれ、市やファジアーノ、地元関係者ら約150人が出席。総事業費は約9億円
4月　1日。政田サッカー場オープン。ファジアーノ岡山が指定管理者となる
7月　27日。乗田慎一朗選手がFC岐阜戦で、Jリーグ通算ホームゲーム100ゴールを決める
8月　4日。ガンバ大阪戦で、2009年のリーグ昇格後、ホームゲーム初の満員となる。スタンドにはクラブ史上最高の1万8269人のファンが詰め掛けた
9月　15日。J昇格からホーム通算100試合となる松本山雅FC戦に勝利し、節目を白星で飾る
22日。セカンドチーム「ネクスト」が中国リーグ優勝
11月　24日。J2参戦5年目のシーズンを22チーム中12位で終了。J昇格後、初めて前年順位（8位）を下回る
25日。「ネクスト」が全国地域サッカーリーグ決勝大会決勝ラウンドで準優勝、JFLに昇格

香川・小豆島キャンプで自転車トレーニングに励むファジアーノ岡山イレブン（1月17日）

天然芝グラウンド（奥）などを備えた政田サッカー場の完成を祝う関係者（3月29日）

天然芝2面、夜間照明がある人工芝1面とクラブハウスを備える「政田サッカー場」がオープン（4月1日）

クラブ史上最高の18000人を超えるファンやサポーターが詰め掛けたガンバ大阪戦。スタンドは観客で埋め尽くされた（8月4日）

トマト銀行がファジアーノ岡山をイメージした通帳などを発行（8月1日）

2014
（平成26年）

チームスローガン「100年続くクラブのDNAのために。」

2月　6日。Jリーグが2013年の観戦者調査の結果を発表。ファジアーノ岡山のホームゲーム観戦の動機として、「地域貢献しているから」「イベント・グルメ企画が楽しそう」の2項目がJ1、J2の全40チームで1位に。地域の関わりの強さを表すランキングも6位に

7月　5日。「瀬戸大橋ダービー」と銘打ち、J2で初めてファジアーノ岡山対カマタマーレ讃岐が行われる。スタジアムに今季最多となる1万2359人が集結

8月　10日。湘南ベルマーレ戦を引き分け、連続無敗記録をリーグ歴代単独3位となる18試合に伸ばす

31日。ファジアーノ岡山とカマタマーレ讃岐が直接対決する「瀬戸大橋ダービー」の第2戦が丸亀市の香川県立丸亀競技場で行われる。JR西日本岡山支社が初の専用応援列車を運行、岡山から敵地へ乗り込んだサポーターはアウェーで過去最多の約3200人

11月　9日。「ネクスト」がJFL14チーム中11位でシーズンを終了

12月　28日。影山雅永監督が今季限りで退任すると発表される

7日。新監督に長澤徹コーチが昇格

26日。池上三六ゼネラルマネジャーが退任し、後任にJ1のFC東京で強化部長などを務めた鈴木徳彦が就任すると発表される

岡山市内の NPO 法人が、ファジアーノとシーガルズにちなんだ貸自転車「ももちゃり」を市に寄贈（10 月 24 日）

瀬戸大橋ダービー初戦、大勢のサポーターでにぎわうフードコーナー。両県の自慢のグルメが用意されたフードコーナーでも両県が熱戦（7 月 5 日）

ファジアーノ岡山を去る影山雅永監督 (右) と
新監督となる長澤徹コーチ

瀬戸大橋ダービー第 2 戦、香川県立丸亀競技場に詰め掛けたファジアーノサポーター。アウェー過去最多の 3200 人を記録（8 月 31 日）

2015
（平成27年）

チームスローガン「100DNA　100年続くクラブのDNAのために。」

1月　監督となった長澤徹新体制が始動し、15日からウインターキャンプが香川・小豆島沖の無人島で始まる

2月　ホームゲームの平均入場者数1万人の達成を目指す「Challenge1」プロジェクトを発表

3月　20日。岡山市のシティライトスタジアムで21日にあるセレッソ大阪戦の前売り入場券が完売したと発表。ホームゲームで2番目に多い1万5820人が来場

5月　6日。栃木SC戦で、Jリーグホームゲーム通算入場者数100万人を突破

30日。アウェーとなる香川県立丸亀競技場で行われた瀬戸大橋ダービーで待望の初白星。カマタマーレ讃岐との3度目のダービーで初めて勝利をもぎ取り、海を渡って選手を鼓舞した約2700人のサポーターが歓喜

11月　15日。「ネクスト」がJFL16チーム中15位でシーズンを終え、来季のJFL残留を辛うじて決める

24日。今季最終戦があり、5年ぶりの新監督に長澤徹コーチが昇格し、元日本代表の選手も加え心機一転を期したが、12勝18分け12敗で22チーム中11位。順位を昨季から三つ下げ、念願のJ1昇格ならず

12月　リオデジャネイロ五輪最終予選を兼ねたU-13アジア選手権の男子日本代表に矢島慎也選手が選出される

リーグ戦開幕を前に、岡山市内の路線バスにファジアーノのラッピングバスが初お目見え（3 月 5 日）

長澤新監督初陣のホーム初戦に1万人超。スタンドがファジアーノカラーに染まる（3 月 8 日）

ウインターキャンプを終え、無人島から手づくりのいかだで脱出する選手たち（1 月 18 日）

初の「サポーターカンファレンス」を開催。クラブ運営や今後についてサポーターと意見交換（11 月 15 日）

「Challenge 1」プロジェクトのロゴとポスターを披露する木村代表とファジ丸（2 月 6 日）

Interview

ファジアーノ岡山 これからの10年へ向けて

2016

（平成28年）

チームスローガン「100DNA　100年続くクラブのDNAのために。」

1月　「Challenge1」プロジェクト継続

6月　24日。セカンドチーム「ネクスト」の活動を今季限りで終了すると発表

7月

8月　13日。株式会社設立10周年

7日。徳島ヴォルティス戦で今季2度目の3連勝を飾るとともに、昇格8年目でJ2通算100勝を達成

11日。J2から唯一リオ五輪に出場した矢島慎也選手が、男子の1次リーグ最終戦となるスウェーデン戦で決勝点を挙げる

9月　11日。レノファ山口FC戦に、1万1225人がスタジアムに詰め掛け、ホームの観客1万人超えが6試合連続となる

11月　20日。ザスパクサツ群馬戦を引き分け、過去最高の6位（22チーム中）を死守。初のJ1昇格プレーオフ進出を決める。今季最多の1万5204人が詰め掛け、ホーム戦の今季平均入場者が1万17人となり、「Challenge1」を初めて達成

27日。J1昇格プレーオフ準決勝で、リーグ戦3位の松本山雅FCを破り決勝へ

12月　4日。J1昇格プレーオフ決勝で、セレッソ大阪に敗れ悲願のJ1昇格ならず

最終戦のザスパクサツ群馬戦で今季最多の1万人超、「Challenge 1」を初めて達成（11 月 20 日）

ファジアーノのラッピング列車がJR山陽、赤穂線にお目見え。岡山駅での出発式（10 月 19 日）

熊本地震の被災者を支援するため、シティライトスタジアムで募金活動（4 月 17 日）

J 1 へ王手。プレーオフ準決勝で松本山雅FC戦を劇的勝利で下し、チームメートと抱き合う選手たち（左）と歓喜の瞬間のサポーター（11 月 27 日）

政財界の関係者ら約 280 人が集い、株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブの創立 10 周年を祝う会を開催。（9 月 5 日）

岡山商工会議所 会頭
岡﨑　彬

昇格はもちろん、愛されるわが街のクラブに

「岡山にプロサッカークラブ創設」という話を聞いた時、驚きと同時に「本当なの？」と思いました。多額の運営費用がかかりますし、正直疑心暗鬼でしたね。

でもその一方で、当時の岡山はプロスポーツ不毛の地、切望する気持ちもありました。商工会議所は総合経済団体として地元企業を支え、地域振興に取り組むのが使命。地方創生が叫ばれる中、ファジアーノがその一役を担ってくれたら……そんな期待感もあり応援を始めました。

心に強く残るのは、やはりＪ２昇格を決めた試合と、昇格後初のホームゲーム。あの高揚感は今でも昨日のことのように覚えています。しかし、初年度は最下位。厳しい現実でしたね。それでもシーズンごとに着実に強くなり、今や1万人超もの観客を動員する力も付きました。

Ｊ1昇格はもちろん期待しますが、連敗しても応援され、愛されるわが街のクラブになってほしいですね。

株式会社サンヨープレジャー
取締役会長／元岡山市長
髙谷 茂男

感慨深い政田サッカー場の整備

ファジアーノ岡山との出会いは、岡山市長を務めていた頃。当時、岡山には県民・市民みんなで応援する球団などがなく、ファジアーノがそういう存在になってくれたらと思い、創設に大賛成しました。

一番の思い出は、政田サッカー場の整備でしょうか。専用練習場を持たないファジアーノは当時、選手の獲得にも困難を来していました。28万人を超える要望書と署名はとても重かったですね。サポーターや関係者の皆さんの情熱が伝わってきました。

今、そのグラウンドで子どもたちがファジアーノの選手と交流しています。憧れの選手と一緒にサッカーをすることは、子どもたちにとって夢なんです。同時に私たちにとっても夢ですよね。未来を託す子どもたちなのですから。これからも岡山県民の夢を背に、天衣無縫の活躍をしてほしいですね。

株式会社源吉兆庵
代表取締役会長
岡田 拓士

ファジアーノ応援通し、県民を一つに

スポンサーになる前はファジアーノ岡山を全く知りませんでした。しかし聞けば岡山に生まれてまだ日も浅く、奮闘しているスポーツクラブとのこと。弊社も岡山で産声を上げた企業。創業時を思い出し、純粋に応援したくなりました。それが私の出会いですね。

これまで応援を続けていて一番印象的だったのは、Ｊ2に昇格したこと。カテゴリーが上がればサッカーのレベルも当然高くなります。それに見合ったチームづくりが求められますが、クラブは確実にそれを実行しています。簡単なことではないと思いますね。

観戦者も増えました。何といってもスタジアムのアクセスがいい。市街中心部に存在することが県民のホスピタリティーになり、にぎわい創出にもつながります。ファジアーノ岡山の応援を通し、岡山県民の結束力がより高まってくれることを期待しています。

菅公学生服株式会社
代表取締役社長
尾﨑　茂

〝岡山らしさ〟にこだわり愛されるクラブに

２００５年から5年間、ユニホームを提供してきました。当初の認識は「岡山にもサッカーチームがあったんだ」といった程度でした。

当時のチームはアマチュア中心。それが07年、Ｊリーグを目指すためプロ化しました。この時、アマ選手の多くが仕事との両立に悩んだ末、涙をのんでユニホームを脱ぎました。成長への脱皮に伴う痛みといえますが、この時はチームの本気度を感じましたね。彼らの魂は今もしっかりと継承されているはずですよ。

最も印象に残るのは、Ｊ2昇格。予想より早かった。当時はユニホームに弊社のロゴが入っていたこともあり、社員総出で応援ツアーを企画したものです。

もちろん将来はＪ1定着を期待しています。でもその前に、勝ち負けよりも〝岡山らしさ〟にこだわり、県民みんなに愛されるクラブであってほしいですね。

岡山県サッカー協会 会長
尾崎 健治

「ファジアーノ」に込めた思いを実現して

資金集めにはとても苦労しました。県1部リーグからスタートし、JFL（日本フットボールリーグ）へ上がったんですけど、ここが最初の地獄。この時に赤字に転落したんですね。でも、この赤字がなければ木村代表との出会いはなかったかもしれません。

発足当時のNPOを立ち上げた時期、最も苦労したのは地域リーグでの優勝。あの戦いを乗り切れたからこそ、今につながる未来が開けた。だから優勝時には魂が震えるほど感激しましたね。

今、ファジアーノは行政やスポンサーなどといい関係が築けています。だから日本サッカー協会が地域密着型のクラブ創設の際のモデルケースに選んでくれたのでしょう。これからも岡山から全国へ、日本から世界へ飛べ――ファジアーノというネーミングに込められた思いを実現してほしいですね。

備前市議会議員
守井 秀龍

設立準備からファジアーノと共に

草創期、認可されるにはまずNPOにする必要があり、今思えば一番大変な作業でした。中でもとりわけ難しかったのは、チームの核をつくること。どのチームを中心にするか。最終的にRFK（リバーフリーキッカーズ。川崎製鉄水島サッカー部OBが倉敷市で結成）が乗ってくれましたが、その時に「地域振興」「チームの浸透」「子どもたちに夢を」というこの三つで一つのアイデンティティーでいこうと決めました。心に残るゲームはJFLに上がれなかった年の全国地域リーグ決勝大会。これがあったから翌年、昇格したんじゃないかな。資金はない、人もいない、ないない尽くしの上、ド素人ばかり。よくここまでやってこれましたね。発足時から名称・エンブレムを変えず、チームイメージを継承してきたのがよかったのかな。チームへの期待は、地域の活性化。それが人も育てるはずです。岡山から全国へ、さらに世界を目指して！

ファジアーノ岡山・元監督
山下 立次

アジア、世界への飛躍を目指して

２００４年、私が初代監督としてスタートしました。現場では、実は3回失敗してるんです。

一つは三菱自動車水島FCを中心にチーム作りをしようと狙ったが、うまくいかなかったこと。二つ目はブラジルの名門チームを招いての国際親善大会で赤字が出たこと。これがなかったら、木村代表との出会いはなかったでしょう。三つ目はJFLに上がる大会での予選リーグ敗退。私も反省文を書きましたよ。でも、プロ化にはプロの選手・監督の獲得が不可欠だと、みんなはっきり分かったんじゃないでしょうか。

専用スタジアム整備は、観客が入り切れない状況をつくるのが一番早道じゃないかな。まずは国内で知名度を上げる。そしてアジア、世界への飛躍を目指し一歩ずつ力を付けていくんです。そのためにももっともっと地域全体で盛り上げていきたいですね。

山陽新聞社 編集局運動部副部長
飯田 陽久

「挑戦心」いつまでも

運動部記者として、２００６年から翌年にかけてファジアーノ岡山を取材しました。当時は中国リーグでしたが、Jリーグ入りを掲げ、プロ化へ大きく舵を切った激動期。「俺の魂はチームに置いていく」。そう言い残し、やむを得ず退団したアマチュア選手もいました。

新経営陣の熱意は少しずつ、しかし確実に県民の意識を変え始め、Jクラブとしての礎を築いていきます。１９９４年に地元を揺るがした「川崎製鉄サッカー部、J目指し神戸へ移転」の取材経験から、絶対このチャンスを逃してはならないと確信。岡山初のJチーム誕生を願い、競技に限らず幅広い記事の執筆を心掛けました。

今、思い出しても胸が熱くなるのがJデビュー戦。郷土を愛する多くの人がそれぞれの立場で力を尽くし、チームを夢舞台に押し上げたのです。この原点を忘れず、いつまでも「挑戦する心」を持ち続けてほしいですね。

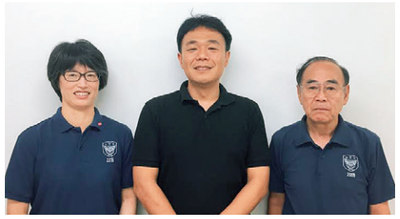
We Support!!

元FSSリーダー
丹下 和則

ファジアーノ岡山サポートスタッフ（FSS）には2005年、まだ岡山県リーグを戦っていた時代に参加しました。当日チケットの販売や入場口でのもぎり、観客誘導など、いろんなボランティアをやってきました。

J2に昇格した時、実は辞めようと思ったんです。Jリーグは1試合約80人ものボランティアが必要な上、試合数が増え平日夜のゲームもあって、より多くの人手が必要なんです。慰留もあり残ったものの、ゲートに何人スタッフを配置すればよいかさえも分からず、そもそもどうすればボランティアが増えるのか……。手探りの状態からのスタート。きつかったですね。それでも徐々にボランティアが増えてきて、手応えを感じたものです。

ファジアーノ岡山には「子どもたちに夢を」の理念を忘れず、これからもこの町のために何ができるのかを常に考えるクラブであってほしいですね。



FSSリーダー
坂上 大祐（写真中）・
田邊 直幸・木山 るり子

坂上 ヴァンフォーレ甲府でボランティアをしていた時に岡山へ転勤になり、気が付けばホームではボランティア、アウェーではスタジアムで応援していました。7年間になりますが、クラブの着実な成長を実感しています。

木山 2009年にボランティアを始めました。20年ぶりに岡山に帰り何か楽しいものはないかなと思って。忘れられないのは、署名活動をして政田サッカー場ができたこと。心が折れそうになることもあるけれど、選手の頑張りから力をもらって逆に支えてもらっている感じです。若い方にもっと参加してほしいですね。

田邊 2009年J2初年度の開幕戦からボランティアに参加しました。クラブ創設時と比べて、よくここまでたくさんのスポンサーやサポーターが増えたものです。今後、J1に定着して絶えず上位を歩んでほしいですね。ボランティアとして、ひたすら体を動かします。みんなと一緒に。

俺たちの街の俺たちのチームに

CURVA ROSA代表
岡本 透

2005年にコールリーダーを始め、共に戦うサポーターを増やすために汗をかきました。でも当時は、まだ目立ってやろうというくらいの軽い気持ちだったかな。

それが変わったのは、昼間働いて夜に練習を頑張っている選手の姿を見てから。徐々に愛情に変わっていきました。当時は「岡山からJを」というものの道筋が見えず、選手が真剣に戦っていることだけが、サポーターにとってJへの唯一の道だったように思います。

その年、JFL昇格を掲げた全国地域リーグで敗退。涙を流す選手を見て、自分たちももっと何かしなければという思いが強くこみ上げてきました。

翌年、チーム強化のため、選手19人が退団。今まで一緒にやってきた選手がいなくなり、気持ちの整理がつかないままチームを応援しました。勝利しても選手の気持ちが見えないときは納得がいかず、ブーイングしたこともありました。苦しい時期でしたが強く印象に残っています。

2007年、3年連続で挑戦した全国地域リーグ決勝大会で初優勝し、JFL昇格を決めた時、試合後は、興奮で何も覚えていないほどでした。号泣していたかな。でも、これは通過点。それにJ1昇格だってゴールじゃないんです。

ファジアーノ岡山がこの街に根付くこと。「おらが街にファジがある。Jリーグクラブがある」と自信を持って言えること。これってすごいことだよね。

※CURVA ROSA（クルヴァ・ローザ）……ファジアーノ岡山のサポーターチーム。2005年、結成。

Directory

ファジアーノ岡山 歴代スタッフ・在籍選手名鑑

学校法人森教育学園岡山学芸館
高等学校 校長／株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ 取締役
森 健太郎

総合スポーツクラブへの発展期待

2005年にブラジルの名門クラブ、グレミオFCのジュニアチームを招いての「国際親善サッカー大会」を企画しました。ちょうど中国リーグに昇格した時で、これをきっかけに小・中学校の同級生である木村正明氏に社長就任を懇願したのを覚えています。

株式会社化にあたり、感謝しているのは、当時NPO法人の運営の中心にいてくださった方々が若僧の私たちにクラブの運営を任せてくださったことです。岡山のサッカーの歴史を作ってくださった先輩の皆様方の努力に応えていかなければと強く感じました。

これまでは学校の部活動が地域のスポーツを支えてきましたが、少子高齢化が進む中で、これからは地域のスポーツクラブが主役になってくると感じています。一貫した指導体制で進めなければ、世界的プレーヤーは生まれません。サッカーだけに限らず、総合的なスポーツクラブへの発展を期待しています。

株式会社レイデックス
代表取締役
明石 卓巳

デザインを通し「子どもたちに夢を」実現

木村代表、森取締役とは幼なじみなんですよ。最初、森氏から「ファジアーノ岡山というチームがあって、Jリーグに行かせたいんだ」と熱く語られたんですね。僕はデザインが仕事なので、ステッカー制作で協力しました。それがファジアーノとの最初の出会いです。

今もとても大切にしているのは、ファジアーノがJFLに昇格した年のユニフォーム。僕がデザインを担当させてもらい、岡山県民の誇りをゴールドという色にして背中に入れたんです。

ファジアーノのクラブ理念は「子どもたちに夢を」です。この理念をもっと根付かせるためにずいぶん悩みましたが、答えは目の前にありました。デザインを通して夢を与えようと気付いたんです。以来、ビジュアルディレクターとしてグッズやポスターなどのデザインを手掛けてきました。そこに参加できたことが僕の一番の思い出です。

2004 岡山県リーグ1部

監　督	山下 立次
コーチ	坂本 克弘
コーチ	兼本 正光
テクニカルコーチ	三宅　治

ファジアーノ岡山の運営母体「NPO法人岡山ヒューマンスポーツクラブ」設立。「岡山からJリーグを」を合言葉に、前年の岡山サッカーリーグ県1部覇者のリバーフリーキッカーズ（RFK、倉敷市）を核に結成された。初参戦した県リーグ1部では全勝優勝、中国リーグ（CSL）入れ替え戦も制しステップアップ。アマチュア最高峰の日本フットボールリーグ（JFL）入りを目指し、新たなステージへと飛び立った。

1	GK	藤井 陽介
16	GK	兼本 正光
31	GK	小野 雅明
3	DF	藤井 一昌
4	DF	谷川　学
6	DF	青山 裕高
7	DF	小林 英伸
13	DF	高橋 裕昭
24	DF	黒田 和夫
26	DF	近藤 光央
28	DF	田玄 久幸
29	DF	高原 良明
30	DF	酒井 靖雄
38	DF	松枝 大介
39	DF	石川 寛和
43	DF	高木　功
2	MF	小村 正和
5	MF	井本 裕一
8	MF	井上 史久
9	MF	村井 祐規
10	MF	吉谷　剛
15	MF	小林 一基
18	MF	片山 将樹
21	MF	石川 哲平
22	MF	石原 龍二
23	MF	白濱 孝典
25	MF	柴田 祐輔
27	MF	乙倉 健二
32	MF	冨崎 裕一
33	MF	高瀬　敦
35	MF	石原 翔太
36	MF	小野 毅博
37	MF	冨崎 高志
40	MF	金　鍾柱
41	MF	川崎 和宏
11	FW	脇本　浩
14	FW	丸野 勝一郎
17	FW	中島 健樹
19	FW	大久保 哲弥
20	FW	吉川 拓真
34	FW	田渕　健
42	FW	川本 康二

2005 CSL

監　督	山下 立次
コーチ	酒井 靖雄

中国リーグ昇格1年目で、全国地域リーグ決勝大会進出ラインの2位に食い込む。しかし、同決勝大会では善戦及ばず1次ラウンドで敗退。目標とした日本フットボールリーグへの昇格はならなかった。

ファジアーノの今季最高観客数はホーム初戦の450人、スポンサーは3社。仕事を持ちながら限られた時間と資金で活動する選手にはホームグラウンドさえないという環境だったが、着実に土台を築いていった。

1	GK	藤井 陽介
16	GK	古藤 大輔
2	DF	高原 良明
3	DF	小林 英伸
4	DF	石原 翔太
5	DF	乙倉 健二
13	DF	青山 裕高
23	DF	曽根 康介
24	DF	近藤 光央
26	DF	谷川　学
27	DF	H・アンドレ
30	DF	横田 純一
33	DF	黒田 和夫
37	DF	丸山 富洋
6	MF	村井 祐規
7	MF	藤井 一昌
8	MF	田渕　健
15	MF	松枝 大介
17	MF	高瀬　敦
18	MF	石原 龍二
19	MF	小林 一基
20	MF	福森 慎太郎
22	MF	大久保 哲弥
25	MF	冨崎 高志
28	MF	白濱 孝典
9	FW	梁　圭史
10	FW	吉谷　剛
11	FW	石川 哲平
14	FW	丸野 勝一郎
21	FW	吉川 拓真
	FW	阿式 幸彦

2006 CSL

監　督	山下 立次
コーチ	酒井 靖雄

それまでNPO法人だった運営組織を株式会社化し、名称も新たに「株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ」が発足。木村正明代表の下、将来のJリーグ昇格を見据え、選手強化や財政基盤充実に取り組んだ。その努力が実り、念願の中国リーグ初優勝に輝き、全国地域リーグ決勝大会では強敵を相次ぎ破り、決勝ラウンド3位。惜しくも日本フットボールリーグ昇格こそ逃したものの、大善戦のシーズンであった。

1	GK	藤井 陽介
16	GK	古藤 大輔
30	GK	徳永　武
2	DF	高原 良明
3	DF	石原 翔太
4	DF	伊藤 琢矢
6	DF	村井 祐規
21	DF	曽根 康介
22	DF	H・アンドレ
25	DF	丸谷　明
27	DF	加藤 佳孝
32	DF	青山 裕高
33	DF	野本 安啓
41	DF	谷川　学
5	MF	乙倉 健二
7	MF	藤井 一昌
8	MF	田渕　健
10	MF	吉谷　剛
13	MF	川原 周剛
14	MF	石原 龍二
17	MF	高瀬　敦
19	MF	朝比奈 祐作
20	MF	福森 慎太郎
23	MF	大久保 哲弥
24	MF	吉川 拓真
26	MF	池田　英
28	MF	関口 圭亮
29	MF	秋好 大知
31	MF	右手 大介
34	MF	桑原 裕義
37	MF	重光 貴葵
9	FW	梁　圭史
11	FW	石川 哲平
15	FW	中川 英之
18	FW	阿式 幸彦
36	FW	松浦 宏治
39	FW	ジェフェルソン

2007 CSL

監　督	手塚　聡
コーチ	梁　圭史

新監督に手塚聡、新設のゼネラルマネジャー（GM）に池上三六、総監督に山下立次がそれぞれ就任。2010年Jリーグ参入を目指し、フロント、スタッフを強化した。新体制で臨んだ今季、中国リーグで17戦全勝し2連覇。Jリーグ準加盟が承認され、地域リーグ所属チームでは初の快挙となった。そして、3年連続で挑戦した全国地域リーグ決勝大会では初優勝、目標としていた日本フットボールリーグ昇格を決め、夢のJリーグ入りへ向け一歩前進。

1	GK	堤　喬也
23	GK	李　彰剛
30	GK	徳永　武
2	DF	丸谷 祐一
3	DF	玉林 睦実
4	DF	伊藤 琢矢
6	DF	青山 裕高
15	DF	重光 貴葵
16	DF	野本 安啓
17	DF	加藤 佳孝
25	DF	丸谷　明
37	DF	大島　翼
38	DF	三原 直樹
5	MF	山口 直大
7	MF	朝比奈 祐作
10	MF	川原 周剛
11	MF	弦巻 健人
14	MF	関口 圭亮
18	MF	池松 秀明
19	MF	明石 靖久
22	MF	臼井 仁志
26	MF	藤定 孝章
27	MF	永禮 大貴
28	MF	小野 雄平
8	FW	中川 英之
9	FW	喜山 康平
24	FW	掛谷　悠
39	FW	ジェフェルソン

2009 J2

監　督	手塚　聡
ヘッドコーチ	影山 雅永
コーチ	梁　圭史
コーチ	森川 潤一
ＧＫコーチ	妹尾 真人
マネージャー	山川 宗亨

トレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	芦田 梨恵
トレーナー	木下 広輝

岡山県内初のプロチームとして、Ｊ２にデビュー。記念すべき開幕戦は３月８日、ホームの桃太郎スタジアムで行われ、１万人を超す観客が夢を実現した選手たちに大声援を送った。

しかしこの昇格元年、チームはプロリーグの厚い壁にぶつかる。８勝 12 分け 31 敗でシーズンを終え、18 チーム中最下位。３年間指揮を執った手塚聡監督は退任し、影山雅永が新監督に就任した。

1	GK	李　彰剛
21	GK	真子 秀徳
29	GK	滝　裕徳
41	GK	椎名 一馬
47	GK	廣永 遼太郎
2	DF	尾崎 雄二
4	DF	澤口 雅彦
5	DF	木村 允彦
6	DF	野本 安啓
7	DF	丸谷　明
13	DF	金　廣閔
16	DF	金光 栄大
23	DF	植田 龍仁朗
24	DF	坂本 和哉
25	DF	鵜飼 建吾
31	DF	大島　翼
32	DF	田所　諒
34	DF	馬場　悠
35	DF	森本 勇一
38	DF	三原 直樹
42	DF	西原 誉志
50	DF	野田 紘史
3	MF	玉林 睦実
8	MF	保坂 一成
10	MF	川原 周剛

14	MF	小林 優希
17	MF	妹尾 隆佑
22	MF	臼井 仁志
26	MF	藤定 孝章
28	MF	小野 雄平
30	MF	山口 直大
33	MF	小寺 優輝
36	MF	竹田 忠嗣
37	MF	青山 俊輔
40	MF	加門 亮兵
43	MF	吉岡 拓朗
44	MF	牧浦 裕司
9	FW	小林 康剛
11	FW	喜山 康平
15	FW	関口 圭亮
18	FW	出井 正太郎
19	FW	西野 晃平
20	FW	武田 英明
27	FW	新中 剛史
39	FW	岩田 大樹
45	FW	山本 拓矢
46	FW	三木 良太
48	FW	青木 孝太

2008 JFL

監　督	手塚　聡
コーチ	梁　圭史

日本フットボールリーグ（ＪＦＬ）参入初年度で悲願のＪ２入りを決めた。昇格条件を満たすＪＦＬ４位（17 勝９分け８敗）の戦績を残し、また財務面もクリア。クラブ発足５年目にして岡山初のプロチームを誕生させ、岡山サッカー界に大きな歴史を刻んだ。

Ｊ２昇格が掛かった 11 月 23 日のホーム最終戦では引き分けたものの、岡山市の桃太郎スタジアムに過去最多の観客１万 1053 人が詰めかけた。

1	GK	堤　喬也
23	GK	李　彰剛
29	GK	滝　裕徳
2	DF	丸谷 祐一
4	DF	伊藤 琢矢
5	DF	木村 允彦
6	DF	野本 安啓
15	DF	重光 貴葵
18	DF	池松 秀明
24	DF	尾崎 雄二
25	DF	丸谷　明
31	DF	大島　翼
35	DF	竹田 忠嗣
36	DF	金　廣閔
3	MF	玉林 睦実
8	MF	中川 英之
10	MF	川原 周剛
13	MF	掛谷　悠
16	MF	金光 栄大
17	MF	妹尾 隆佑
19	MF	小林 優希
21	MF	青山 俊輔
22	MF	臼井 仁志
26	MF	藤定 孝章
28	MF	小野 雄平
30	MF	山口 直大
34	MF	関　隆倫
38	MF	三原 直樹
7	FW	朝比奈 祐作
9	FW	小林 康剛
11	FW	喜山 康平
14	FW	関口 圭亮
20	FW	武田 英明
27	FW	永禮 大貴
32	FW	鴨川　奨
39	FW	岩田 大樹

2010 J2

監　督	影山 雅永
コーチ	眞中 幹夫
コーチ	間瀬 秀一
コーチ	梁　圭史
ＧＫコーチ	高橋 範夫
アシスタントコーチ兼マネージャー	森川 潤一
	信藤 健太

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	芦田 梨恵
トレーナー	木下 広輝
トレーナー	京谷 洋佑

新監督･影山体制で臨んだＪ２参戦２年目。全 36 試合を戦い、19 チーム中 17 位。８勝８分け 20 敗で昨季の最下位から着実に前進した。ホーム最多入場者数は、7 月 30 日の札幌戦 1 万 1290 人。同日には、オフィシャルグッズショップ「ファジスクエア」がオープン。また「ファジアーノ岡山の専用練習場整備を推進する会」が、グラウンドとクラブハウスなどの専用練習場設置を求める要望書と 28 万 4673 人分の署名を高谷茂男岡山市長に提出した。

1	GK	李　彰剛
21	GK	真子 秀徳
29	GK	滝　裕徳
41	GK	椎名 一馬
47	GK	廣永 遼太郎
2	DF	澤口 雅彦
3	DF	後藤 圭太
4	DF	近藤 徹志
5	DF	木村 允彦
6	DF	野本 安啓
13	DF	山中 誠晃
16	DF	金光 栄大
23	DF	植田 龍仁朗
24	DF	坂本 和哉
25	DF	田所　諒
30	DF	野田 紘史
31	DF	西原 誉志
34	DF	馬場　悠
35	DF	森本 勇一
44	DF	篠原 弘次郎
45	DF	岡﨑 和也
7	MF	妹尾 隆佑
8	MF	キムテヨン
10	MF	川原 周剛
14	MF	小林 優希

18	MF	竹田 忠嗣
22	MF	臼井 仁志
26	MF	藤定 孝章
28	MF	小野 雄平
32	MF	牧浦 裕司
33	MF	小寺 優輝
36	MF	加門 亮兵
38	MF	千明 聖典
39	MF	福本 尚純
40	MF	宮田 直樹
43	MF	吉岡 拓朗
46	MF	ファビオ 岡
9	FW	岸田 裕樹
11	FW	喜山 康平
15	FW	三木 良太
17	FW	出井 正太郎
19	FW	西野 晃平
20	FW	武田 英明
27	FW	新中 剛史
37	FW	山本 拓矢
42	FW	竹内　翼
48	FW	中野 裕太
49	FW	李　東明
50	FW	白谷 建人

2011 J2

監　督	影山 雅永
コーチ	眞中 幹夫
コーチ	間瀬 秀一
コーチ	若宮 直道
ＧＫコーチ	高橋 範夫
アシスタントコーチ兼マネージャー	信藤 健太
	武藤 崇志

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	木下 広輝
トレーナー	京谷 洋佑
トレーナー	樋口　敦

中位浮上を目指して臨んだ今季は、昨季より四つ順位を上げ過去最高の 20 チーム中 13 位、13 勝９分け 16 敗で終えた。来季はＪ１昇格制度が変わりＪ２の６位以内が絶対条件となるため、新たな目標に。

長年の懸案であった専用練習場問題では、高谷茂男岡山市長が岡東浄化センター（岡山市東区升田）内に天然芝２面と人工芝１面、クラブハウスなどを備えた練習場の整備を正式に表明した。

1	GK	李　彰剛
21	GK	真子 秀徳
29	GK	中牧 大輔
41	GK	椎名 一馬
47	GK	松原 修平
2	DF	澤口 雅彦
3	DF	後藤 圭太
4	DF	近藤 徹志
5	DF	ストヤノフ
6	DF	野本 安啓
13	DF	山中 誠晃
16	DF	金光 栄大
23	DF	植田 龍仁朗
24	DF	坂本 和哉
25	DF	田所　諒
26	DF	馬場　悠
30	DF	一柳 夢吾
31	DF	西原 誉志
40	DF	篠原 弘次郎
43	DF	岡﨑 和也
7	MF	妹尾 隆佑
8	MF	千明 聖典
11	MF	桒田 慎一朗
14	MF	小林 優希
17	MF	大道 広幸

18	MF	竹田 忠嗣
19	MF	山崎 正登
22	MF	臼井 仁志
28	MF	仙石　廉
32	MF	牧浦 裕司
33	MF	小寺 優輝
34	MF	加門 亮兵
39	MF	福本 尚純
44	MF	ファビオ 岡
45	MF	石原 崇兆
9	FW	岸田 裕樹
10	FW	チ　ア　ゴ
15	FW	三木 良太
19	FW	中野 裕太
20	FW	白谷 建人
27	FW	新中 剛史
35	FW	久木田 紳吾
36	FW	角島 康介
37	FW	山本 拓矢
38	FW	三村　真
42	FW	竹内　翼

2015 J2

監　督	長澤　徹
コーチ	布 啓一郎
コーチ	牧内 辰也
コーチ	戸田 光洋
コーチ	若宮 直道
GKコーチ	富永 康博
アシスタントコーチ兼マネージャー	氏平 裕人
	植本 隆浩

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	京谷 洋佑
トレーナー	片瀬 裕己
トレーナー	室井 純也

5年ぶりの新監督に長澤徹コーチが昇格、元日本代表の選手も加え心機一転を期したが、12勝18分け12敗で22チーム中11位。開幕ダッシュに成功したものの、夏場にかけ失速。一時は17位まで後退するほど勝ち切れない試合が続き、J1昇格争いから脱落した。最終的に順位を昨季から三つ下げてシーズンを終えた。クラブ面では「Challenge 1」の目標を掲げ、ホームの1試合平均観客数1万人を目指すも8412人に終わる。

1	GK	中林 洋次
22	GK	椎名 一馬
29	GK	松原 修平
42	GK	似鳥 康太
44	GK	木和田 匡
46	GK	李　京泰
3	DF	久木田 紳吾
4	DF	近藤 徹志
5	DF	植田 龍仁朗
6	DF	竹田 忠嗣
21	DF	加地　亮
31	DF	板野 圭竜
32	DF	田中 宏昌
34	DF	田中 雄輝
35	DF	岩政 大樹
36	DF	寄特 直人
39	DF	篠原 弘次郎
41	DF	西林 直輝
45	DF	宮本 樹明
	DF	曺　圭承
2	MF	澤口 雅彦
7	MF	黄　辰成
8	MF	渡邊 一仁
10	MF	千明 聖典
11	MF	染矢 一樹
16	MF	関戸 健二
17	MF	島田　譲
20	MF	妹尾 隆佑
23	MF	宮田 直樹
24	MF	矢島 慎也
25	MF	田所　諒
26	MF	田中 奏一
30	MF	幡野 貴紀
33	MF	伊藤 大介
37	MF	千布 一輝
38	MF	加藤 健人
40	MF	飯田　涼
9	FW	岡本 英也
13	FW	久保 裕一
14	FW	押谷 祐樹
15	FW	三村　真
18	FW	上條 宏晃
19	FW	片山 瑛一
27	FW	藤岡 浩介
28	FW	小林 秀征
43	FW	呉　大陸
47	FW	權　路案

2014 J2

監　督	影山 雅永
コーチ	眞中 幹夫
コーチ	牧内 辰也
コーチ	長澤　徹
コーチ	宮下　俊
GKコーチ	高橋 範夫
アシスタントコーチ兼マネージャー	丸谷　明
	氏平 裕人

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	京谷 洋佑
トレーナー	片瀬 裕己
トレーナー	室井 純也

影山監督体制で臨んだ5年間のラストシーズンは15勝16分け11敗（勝点61）の8位で終えた。リーグ中盤までクラブ記録となる18戦連続無敗でJ1昇格プレーオフ圏（3～6位）をキープするなど好調だったが、終盤に失速。過去最高に並ぶ順位にも悔しさが募った。

5年間指揮を執った影山雅永監督は今季限りで退任。来季はコーチから昇格する長澤徹新監督の下、J1入りに挑戦する。

1	GK	中林 洋次
21	GK	真子 秀徳
22	GK	椎名 一馬
29	GK	松原 修平
3	DF	後藤 圭太
4	DF	近藤 徹志
5	DF	植田 龍仁朗
6	DF	竹田 忠嗣
15	DF	鎌田 翔雅
31	DF	西原 誉志
36	DF	寄特 直人
37	DF	田中 宏昌
41	DF	板野 圭竜
42	DF	田中 雄輝
2	MF	澤口 雅彦
7	MF	仙石　廉
8	MF	石原 崇兆
10	MF	千明 聖典
11	MF	染矢 一樹
16	MF	関戸 健二
17	MF	島田　譲
20	MF	妹尾 隆佑
23	MF	宮田 直樹
25	MF	田所　諒
26	MF	田中 奏一
34	MF	幡野 貴紀
39	MF	千布 一輝
40	MF	加藤 健人
44	MF	飯田　涼
50	MF	上田 康太
9	FW	荒田 智之
13	FW	久保 裕一
14	FW	押谷 祐樹
18	FW	上條 宏晃
19	FW	久木田 紳吾
24	FW	林　容平⇒ウーゴ
27	FW	新中 剛史
28	FW	小林 秀征
30	FW	清水 慎太郎
32	FW	片山 瑛一
33	FW	藤岡 浩介
35	FW	ピアカイ ヘンケル
38	FW	三村　真
43	FW	呉　大陸

2013 J2

監　督	影山 雅永
コーチ	眞中 幹夫
コーチ	牧内 辰也
コーチ	宮下　俊
GKコーチ	高橋 範夫
アシスタントコーチ兼マネージャー	谷口 功一
	丸谷　明

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	京谷 洋佑
トレーナー	片瀬 裕己

J2参戦5年目のシーズン全42試合を戦い、勝点56（13勝17分け12敗）の12位で終えた。J2昇格後、初めて前年順位を下回り、2009年のJリーグ参入から右肩上がりの成長を続けてきたチームが壁に突き当たった。厳しいシーズンであったが、専用練習場「政田サッカー場」が完成し、またJ2昇格後、ホームゲーム初の満員を記録し、スタンドに1万8269人のファンが詰め掛けるなど、明るい話題も。

1	GK	中林 洋次
21	GK	真子 秀徳
22	GK	椎名 一馬
29	GK	松原 修平
3	DF	後藤 圭太
4	DF	近藤 徹志
5	DF	植田 龍仁朗
6	DF	竹田 忠嗣
15	DF	篠原 弘次郎
16	DF	金光 栄大
24	DF	坂本 和哉
31	DF	西原 誉志
36	DF	寄特 直人
2	MF	澤口 雅彦
7	MF	仙石　廉
8	MF	石原 崇兆
10	MF	千明 聖典
17	MF	鈴木 崇文
18	MF	関戸 健二
23	MF	宮田 直樹
25	MF	田所　諒
26	MF	田中 奏一
28	MF	岡﨑 和也
30	MF	李　載冠
33	MF	飯田　涼
34	MF	妹尾 隆佑
35	MF	島田　譲
41	MF	幡野 貴紀
9	FW	荒田 智之
11	FW	桒田 慎一朗
13	FW	金　民均
14	FW	押谷 祐樹
19	FW	久木田 紳吾
20	FW	上條 宏晃
27	FW	新中 剛史
30	FW	清水 慎太郎
32	FW	竹内　翼
37	FW	山本 拓矢
38	FW	三村　真
39	FW	小林 秀征
40	FW	藤岡 浩介
42	FW	ピアカイ ヘンケル
43	FW	呉　大陸

2012 J2

監　督	影山 雅永
コーチ	眞中 幹夫
コーチ	間瀬 秀一
コーチ	若宮 直道
GKコーチ	高橋 範夫
アシスタントコーチ兼マネージャー	谷口 功一
	丸谷　明
	武藤 崇志

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	京谷 洋佑
トレーナー	樋口　敦

J2昇格4年目となる今季は、リーグ終盤までJ1昇格圏（6位以内）進出の可能性を残す戦いぶり。17勝14分け11敗（勝点65）で、失点は34点とJ2で2番目に少なかった。順位は22チーム中8位、初の1桁入りを果たした。11月には、ミャンマーのヤンゴン市で行われた招待試合に参加し、同国代表と対戦。初の海外遠征となった。また、岡山市が専用練習場の造成工事をスタートさせるなど、明るい話題が多いシーズンだった。

1	GK	中林 洋次
21	GK	真子 秀徳
41	GK	椎名 一馬
42	GK	松原 修平
2	DF	澤口 雅彦
3	DF	後藤 圭太
4	DF	近藤 徹志
5	DF	植田 龍仁朗
16	DF	金光 栄大
22	DF	篠原 弘次郎
24	DF	坂本 和哉
25	DF	田所　諒
26	DF	馬場　悠
28	DF	岡﨑 和也
30	DF	一柳 夢吾
31	DF	西原 誉志
34	DF	田中 奏一
7	MF	金　民均
8	MF	千明 聖典
11	MF	桒田 慎一朗
13	MF	石原 崇兆
14	MF	仙石　廉
15	MF	大道 広幸
17	MF	服部 公太
18	MF	竹田 忠嗣
23	MF	宮田 直樹
29	MF	大屋　翼
36	MF	関戸 健二
39	MF	福本 尚純
44	MF	飯田　涼
9	FW	アンデルソン
10	FW	チ　ア　ゴ
19	FW	中野 裕太
20	FW	川又 堅碁
27	FW	新中 剛史
32	FW	竹内　翼
33	FW	角島 康介
35	FW	上條 宏晃
37	FW	山本 拓矢
38	FW	三村　真
43	FW	呉　大陸

2016 クラブスタッフ

会社役員

代表取締役
木村 正明
取締役ゼネラルマネジャー
鈴木 徳彦
取締役
森 健太郎
取締役
吉田 大助
会計参与
杉岡 和彦

スタッフ

強化部　部長
吉野 伸彦
強化部　強化担当
西原 誉志

アカデミースタッフ

ダイレクター
下山 雅司
スタッフ
植本 隆浩

U-18

監督
田淵 倫三
コーチ
川原 周剛
ＧＫコーチ
真子 秀徳
トレーナー
西潟　亘

U-15

監督
酒井 貴政
コーチ
原田 貴志
森川 潤一
ＧＫコーチ
中本 貴博

U-12

監督
臼井 仁志
コーチ
妹尾 隆佑
スクールコーチ
磯本 圭吾
大西 容平

普及コーチ

朝比奈 祐作
川居 祐介
桑原 浩一
近藤 誌乃
椎木 亮典
白石 恭平
馬場 友香理
本村 健人
山内 勇輝
山川 宗亨
山﨑 友斗
吉野内 彩（チアダンス担当）
李　彰剛
脇谷　誠

フロントスタッフ（五十音順）

阿部 千佳子
植田 剛史
内富 基陸
大賀 敦貴
岡本 龍平
上條 仁志
北川 真也
久保 和裕
齊藤 めぐみ
櫻内 光太
瀬島 啓二
田口 順一
竹内　淳
仲谷 浩昭
畑　陽子
前原 智子
増井 哲哉
宮﨑 美幸
宮原 敏徳
村井 祐規
森井　悠
森繁　豊
渡邊 健司

2016 J2

1	GK	中林 洋次
22	GK	椎名 一馬
29	GK	松原 修平
40	GK	李　京泰
42	GK	似鳥 康太
44	GK	木和田 匡
3	DF	久木田 紳吾
4	DF	近藤 徹志
6	DF	竹田 忠嗣
21	DF	加地　亮
23	DF	久保 飛翔
31	DF	板野 圭竜
32	DF	田中 宏昌
33	DF	金　珍圭
34	DF	田中 雄輝
35	DF	岩政 大樹
36	DF	寄特 直人
39	DF	篠原 弘次郎
41	DF	西林 直輝
43	DF	宮本 樹明
47	DF	宮川 晃至
48	DF	山下 泰明
49	DF	山下 宏輝
50	DF	佐々木 健人
2	MF	澤口 雅彦
5	MF	渡邊 一仁
7	MF	伊藤 大介
10	MF	矢島 慎也
16	MF	関戸 健二
17	MF	島田　譲
18	MF	秋吉 泰佑
26	MF	田中 奏一
37	MF	千布 一輝
38	MF	加藤 健人
46	MF	渡部 亮武
51	MF	武田 将平
9	FW	岡本 英也
11	FW	三村　真
13	FW	久保 裕一
14	FW	押谷 祐樹
19	FW	片山 瑛一
20	FW	藤本 佳希
24	FW	赤嶺 真吾
25	FW	酒井 宣福
27	FW	藤岡 浩介
28	FW	小林 秀征
30	FW	豊川 雄太
45	FW	權　路案
52	FW	王　靖斌

監　督	長澤　徹
コーチ	布 啓一郎
コーチ	牧内 辰也
コーチ	戸田 光洋
コーチ	若宮 直道
コーチ	梁　圭史
ＧＫコーチ	富永 康博
チーフマネージャー	氏平 裕人
チームマネージャー	谷口 功一
	松﨑　郁

チーフトレーナー	冨崎 裕一
トレーナー	京谷 洋佑
トレーナー	片瀬 裕己
トレーナー	室井 純也

Ｊ２参入８年目で最もＪ１に近づいた 2016 年。勝点 65（昨季 54）、得点 58（同 40）、得失点差 14（同５）――。今季の成績を昨季と比べると、チームは飛躍的に成長した。Ｊ２過去最高順位の６位に入り、初めてＪ１昇格プレーオフに進出。Ｊ１昇格の悲願達成まであと１勝に迫った。

また目標に掲げていたホーム平均入場者１万人を目指す「Challenge 1」も達成するなど、クラブ史を塗り替える躍進を遂げた。

クラブ理念

子どもたちに夢を!

「あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること」「サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること」「『観る』『する』『参加する』。スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること」を目指した、「Jリーグ百年構想」の理念に深く賛同し、岡山の地においてそれらを具現化すべく弊クラブを発足しました。

そして、クラブ理念として「子どもたちに夢を!」を掲げています。「岡山の誇りを背負って戦う選手と子どもたちが仲間になる」「家庭と地域と学校の三者が協働できる社会づくりに貢献する」「岡山の誇りとなる存在になる」ことを目標にしています。

●ファジ丸

ファジアーノ（Fagiano）とはイタリア語で「キジ（雉）」の意味。キジは岡山県を代表する鳥として、県鳥に指定。また、郷土に古くから伝わる桃太郎伝説で、キジが鬼退治に活躍したことにちなみ、チーム名に命名しました。ファジ丸はそのマスコットキャラクターです。

ファジアーノ岡山スポーツクラブ 10 年の軌跡
感謝と共に～株式会社設立10周年記念誌

2017 年 1 月 27 日　発行

発　行　所　株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ
〒 704-8163 岡山市東区升田 614-11
TEL.(086)948-5654　FAX.(086)948-5657

発　行　人　木村正明
編　　集　株式会社山陽新聞社
デザイン・DTP　尾上光宏　町田リウ
印　刷　所　山陽印刷株式会社
製　本　所　日宝綜合製本株式会社

※本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じます。

子どもたちに夢を!

2016 WE LOVE OKAYAMA

100DNA

100年続くクラブのDNAのために。

The 10th Anniversary

FAGIANO OKAYAMA SPORTS CLUB

http://www.fagiano-okayama.com/